

# 全苗連だより

Vol. 65 (12月号)

令和元年12月24日

発行：全国山林種苗協同組合連合会

Tel.03-3262-3071 Fax.03-3262-3074

## 令和2年度林野庁予算の概算決定の概要

森林整備事業(林野公共予算)は、1,223億円(經常分)(100.1%) + 「臨時・特別の措置」(重要インフラの緊急点検等を踏まえた防災・減災、国土強靱下のための緊急対策)159億円で1,382億円。元年度補正追加額218億円を合すると1,600億円で決定。

非公共事業は林業・木材産業成長産業化促進対策を推進する中で、コンテナ苗幼苗生産高度化施設の普及に取り組むことが決定。

政府は12月20日の閣議で、令和2年度予算について概算決定しました。林野庁予算の概要をお知らせします。

まず森林整備事業予算(公共事業)については、来年度当初予算が一般会計で1,223億円(対前年度比100.1%)となっています。「臨時・特別の措置」(重要インフラの緊急点検等を踏まえた防災・減災、国土強靱下のための緊急対策)159億円を合すると1,382億円。元年度補正追加額218億円を加えると1,600億円となります。

森林整備事業は林業の成長産業化と森林資源の適切な管理を実現するため、森林経営管理制度が導入される地域を中心に、間伐や路網整備、**再造林等を推進**することになります。

予算の重点事項のテーマは『林業の成長産業化と「林業イノベーション」の推進』となっており、11の重点事項が示されています。

一番目に掲げられているのが、令和元年度に引き続き「①林業成長産業化総合対策」(非公共事業)で、総額は123億円(R1は123億円、以下( )はR1年度)。新たな森林管理システムの下で森林の経営管理を担う意欲と能力のある林業経営者の育成や経営の集積・集約を進める地域への路網の整備、スマート林業・新素材開発等の「林業イノベーション」の推進に向けた取組、CLTを含めた木材の利用拡大等、川上から川下までの取組を総合的に支援することとしています。

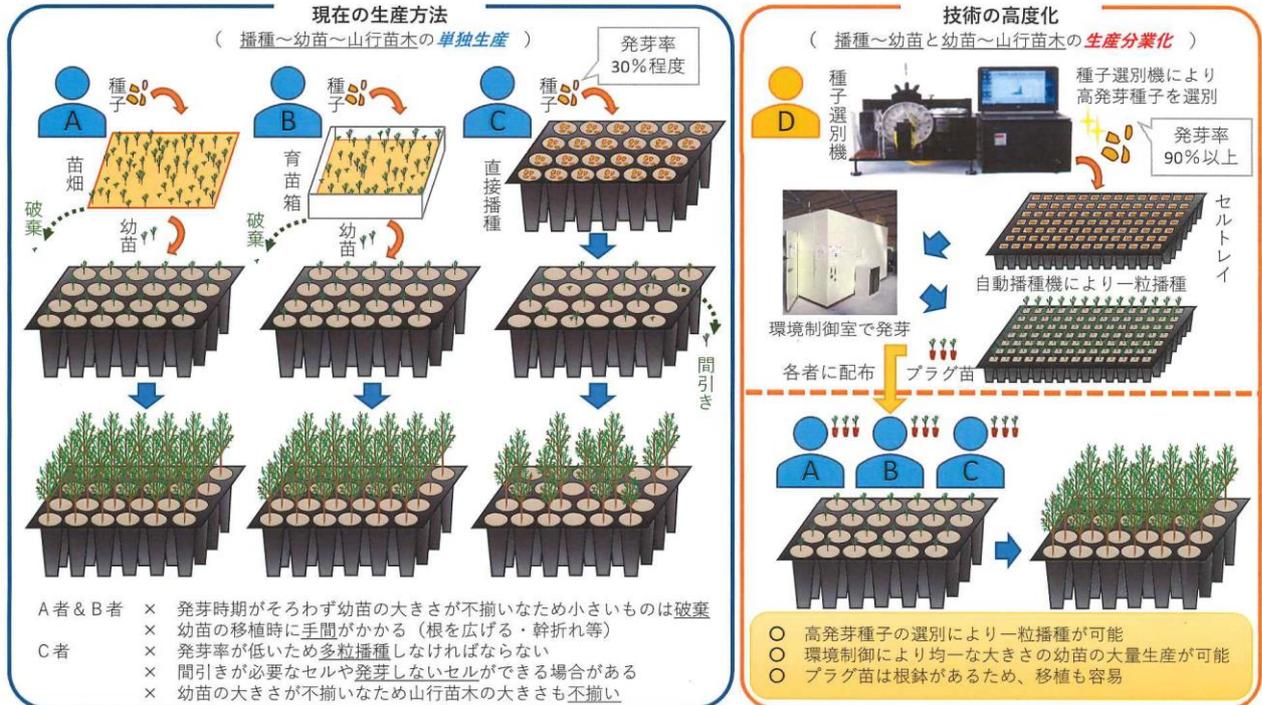
主要な種苗生産に係る支援措置は以下のとおりです。

「林業成長産業化総合対策」の中に「林業・木材産業成長産業化促進対策」【8,604百万円(8,888百万円)】があり、コンテナ苗生産施設や幼苗生産高度化施設等の整備に対する支援の枠組みが位置づけられました。

## コンテナ苗幼苗生産高度化施設の普及

種苗生産の低コスト化を図るためには、技術的課題の多い、発芽から幼苗の段階までの技術を高度化する必要がある。

このため、従来の「個々の苗木生産者が種子から苗木を作る」体制に加え、「発芽から幼苗までを協同組合組織等が担い、その後の育苗を生産者が行う」分業を推進し、効率的な種苗生産システムを構築する。



特に、「コンテナ苗幼苗生産高度化施設の普及」には、種子選別機や環境制御室等の導入がメニュー化されており、従来の「個々の苗木生産者が種子から苗木を作る」体制に加え、「発芽から幼苗までを協同組合組織等が担い、その後の育苗を生産者が行う」分業を推進し、効率的な種苗生産システムを構築することが期待されています。

「林業成長産業化総合対策」の中には、もう一つの柱である「林業イノベーション推進総合対策」【1,050百万円(一)】がありますが、種苗生産に係るものとして「早生樹等優良種苗生産推進対策」【129百万円】が決定されました。具体的には、優良種穂の確保と優良苗木の供給拡大の2項目があります。

### 【優良種穂の確保】

早生樹母樹林の保全・整備(新規)

採種園等の有効活用(拡充)

原種増産技術の開発(拡充)

### 【優良苗木の供給拡大】

苗木被害の早期診断等(拡充)

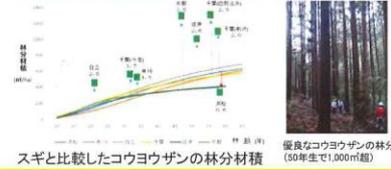
造林コストの早期回収が期待できる早生樹やエリートツリーの普及を加速するため、国内の種穂の採取源の充実と無花粉エリートツリーの開発を進め、これを現地で実証するとともに、苗木被害の早期診断等を行うことで、優良苗木の供給拡大を進める。

1. 優良種穂の確保

① 早生樹母樹林の保全・整備(新規)

優良な種穂の採取源確保のため、国内に現存する優良林分の母樹林指定、整備、種穂の採取等の取組に補助

- 毎木調査、着花・結実調査
- 所有者の同意取付け
- 区域の明示
- 採取の用に供する歩道の整備
- 不要木等の除去
- シードトラップによる種子の採取 etc



② 採種園等の有効活用(拡充)

早生樹等の種苗の生産力向上の取組を推進

- 早生樹等のモデル的な採種園の母樹を若返らせる対策(機能向上)に対して支援
- 利用されなくなった採種園の樹種を早生樹等に転換、人工造林地を採種源として活用(国有林)



③ 原種増産技術の開発(拡充)

成長の優れた花粉症対策苗木の原種増産技術の開発に補助

- 無花粉スギ品種とエリートツリー等を交配した新品種を早期選抜する技術開発



2. 優良苗木の供給拡大

④ 苗木被害の早期診断等(拡充)

近年、高温や病害虫の蔓延等による苗木の生育障害が発生



苗木被害の早期診断と確実な防除のための取組に補助

- 専門家による苗木の健康診断
- 防除方法の指導等



なお、早生樹造林やドローンの利用等による低コスト造林モデルの普及の加速化が決定されています。

低コスト造林モデルの普及の加速化

造林作業や、それに必要な設計・施行管理の省力化・低コスト化を図るため、新たな造林技術やリモートセンシング技術等を導入した造林モデルの実証的な取組を支援する。

造林 ～新たな造林技術の導入実証～

造林作業の省力化・低コストに資する以下のような技術の導入実証を支援。

ドローンによる苗木運搬

従来人力で行っている急傾斜地での苗木運搬に、ついで、ドローンを用いることにより省力化が期待される。



早生樹造林

早く成長する早生樹を導入することにより下刈回数の低減による保育コストの低減と投資回収期間の短縮が期待される。



カバークロープの導入

造林時にワラビ等のカバークロープを導入することで、下刈りの労力削減やカバークロープの販売による副収入を得ることが期待される。



低密度植栽×単木チューブ

低密度に植栽した苗木に、シカ食害防止の単木チューブを用いることで、苗木代及び食害防止資材のコストの低減が期待される。



【参考】伐採と造林の一貫作業の普及(林業・木材産業成長産業化促進対策交付金)

既に普及フェーズに移行している伐採と造林の一貫作業については、さらなる普及を図るため、引き続き、次年度以降も林業・木材産業成長産業化促進対策交付金でその実施を支援。



設計・施行管理

～リモートセンシング技術の導入・普及～

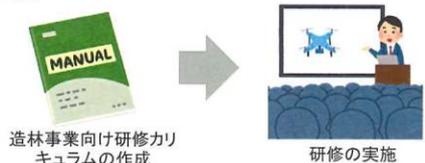
リモートセンシング技術の導入実証

ドローンや地上レーザー等を導入した設計・施行管理の省力化の実証的な取組を支援。



林業事業者等向け研修

林業事業者等がドローンの操縦や、画像撮影・解析等のノウハウを効率的に取得できるよう、造林現場に特化した研修の実施を支援。



また、重点事項の⑧に「花粉発生源対策推進事業」【1億円（1億円）】が今年度に引き続き計上されています。

### 全苗連・苗組の行事予定

～R2.3 ①コンテナ苗生産未経験者を対象とした研修会の実施 ②コンテナ苗生産に新規参入後、間もない事業者を対象とした研修会の実施 ③コンテナ苗生産経験者を対象とした巡回指導の実施 ④造林者等を対象としたコンテナ苗の植栽に関する研修会の実施 ⑤その他研修会の実施等 ⑥種苗の需給情報等を共有する取組  
実施者;全苗連、都道府県苗組

12月12日 東海・北陸地区林業用種苗需給連絡協議会(長野県)

12月15日 全国育樹祭(沖縄県)

12月19日 四国地区林業用種苗需給連絡協議会(香川県 サンポートホール高松)

～20日

12月21日 花粉発生源対策普及シンポジウム2019(全林協)(大阪府)

令和2年

1月6日 林業団体新年賀詞交換会(三会堂ビル「石垣ホール」)

1月17日 関東地区林業用種苗需給連絡協議会(静岡県)

1月30日 当年生苗導入調査委託事業第2回検討委員会(日林協会館)

2月26日 コンテナ苗生産技術等標準化に向けた調査委託事業第3回検討委員会(日林協会館)

5月12日 令和2年度全苗連理事会(ホテルメトロポリタン エドモント飯田橋)

5月22日 令和2年度全苗連通常総会(ホテルメトロポリタン エドモント飯田橋)

9月3日 第6回全苗連生産者の集い(福島県「とうほう・みんなの文化センター(福島県文化センター)」)

～4日